

# 「SOIE」シリーズ拡大

## 川上・川下の声を取り入れていく

### 日の本穀粉

日の本穀粉（栃木県小山 菓子需要拡大に向け、積  
市、黒田寛社長）は中期的 極的にユーザーとのコミュ  
な戦略として、和菓子の再 ニケーションを図ってい

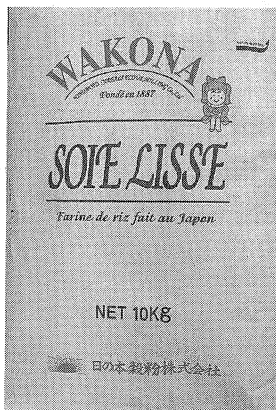
活性化と海外展開の拡大を る。同時に、視野を海外に  
掲げる。そうした中、新規 ひろげ、昨年もスペイン、  
米粉については、「需要に フランス、ドイツで和菓子  
対して原料調達が安定して の講習会を実施。今年1月  
いない」と課題をあげる。 にはJFOODO主催の日  
同社は創業134年の老 本産米粉のPRにも参加し  
舗穀粉メーカー。130周 た。

年を記念して和菓子の大講 「ひとつの大きな柱とし  
習会を開くなど、改めて和 て、すばらしい日本文化で

ある和菓子の需要を掘り起  
こしたい。海外事業は直ぐ  
に実現するものではない  
が、日本の米の粉のすばら  
しさをアピールしていく」

（黒田社長）  
新規米粉用米は令和元年  
産でも2000t弱を使用  
する。「WAKONA」ブ  
ランドの「SOIE」ソ  
ワ」シリーズとして、パ  
ン・洋菓子向けを中心に展  
開。販売も拡大を続けてい  
る。特に極細目の「ソワ  
リス」はカスタードクリー  
ムに使用すると評価が非常

に高く、リピータも多い。  
また、新規米粉はパンや  
洋菓子以外の幅広い食品メ  
ーカーからも引き合いがあ  
る。ただ、「オーダーに応  
えるには、一社で最低でも  
3000tといった規模の  
こともある。原料の安定的  
な調達方法がなければ、攻  
めることができない」と課  
題もあげる。



「ソワ・リス」

原料の安定的な調達に向  
けては、生産者とのコミュ  
ニケーションも活発に図  
る。工場に生産者を招き、  
意見交換の場も設ける。  
「農協や卸と強調しつつ、  
川上の生産者、川下のユー  
ザーの生の声を取り入れて  
いく」との考えだ。